

国内研修成果報告書

〈研修テーマ〉

- ・ 過疎の村が高所得を維持できている要因を明らかにする。
- ・ 行政と企業の連携により、宇検村の人々の生活や地域福祉がどのように変化したのか探究する。

〈研修場所〉

鹿児島県大島郡宇検村

〈研修期間〉

2月2日～2月5日

〈研修参加人数〉

2名

1. 研修動機

今回の研修先として宇検村を選んだのは、いくつかの個人的な関心と問題意識がある。

まず研修地を奄美地域に決めた理由は、同行する友人の家族のつながりを通じて、現地の役場の方へのヒアリングの機会が得られる可能性があったためである。実際に行政の現場の声を直接聞けることで、今回の研修がより有意義なものになると考えた。

その後、奄美地域の中で研修先を考える中で、宇検村が人口約 1600 人という小規模な過疎地域でありながら、村民一人当たりの所得が東京都内の一部の区を上回る水準にあることを知り、大きな驚きを感じた。一般的に、過疎地域は人口減少や産業の衰退によって所得水準が低下しやすいと考えていたのだが、宇検村の状況はそのイメージとは大きく異なっていた。

さらに調べていく中で、宇検村が複数の有名企業や大学と連携し、環境保全や地域振興に取り組んでいる点にも強い関心を抱いた。地方の小さな自治体が、外部の企業や大学とどのように関係を築き、地域づくりに活かしているのかを知りたいと考えようになった。これらのことから研修では、過疎地域でありながら比較的高い所得水準を維持している宇検村を事例として取り上げ、行政の取り組みや企業との連携が地域の生活基盤にどのような影響を与えているのかを考察することを目的とする。

2. 研修地概要

宇検村は奄美大島の南西部に位置する市町村で、人口は約 1600 人である。面積は約 103 km²あるが、そのうち約 96%は森林が占めているほど自然豊かな村である。産業はクロマグロや車エビなどの養殖業、たんかんやマンゴーなどの農業、焼酎などの製造業が主に盛んである。年間を通して多くのイベントや行事があるため村民同士の交流は活発に行われている。

3. 企業連携について

冒頭でふれた企業提携についてだが、現在宇検村は 3 社の企業と連携している。それは上智大学、伊藤忠商事、日本航空である。これら 4 者は、2023 年 9 月 17 日付で、宇検村における環境保全と地域振興を目的とした連携協定を締結した。

宇検村では、子どもたちがふるさとの自然に誇りを持つことを目的に、2014 年から地元小学生によるマングローブ植林活動を継続して実施してきた。この取り組みに伊藤忠商事が賛同し、2021 年から生物多様性の保全に加え、ブルーカーボン・クレジットの創出も視野に入れた支援を行っている。

また、上智大学と日本航空は、2022 年から共同で、環境保全と観光促進の両立による地域活性化を目指す「奄美モデル」の構築に取り組んできた。このモデルは、宇検

村にて行われ、シンポジウムなどを通じてその成果を対外的に発信している。

今回の連携協定は、これまで個別に進められてきた2つの取り組みを統合し、4者が有する人的・物的資源や専門的知見を最大限に活用することで、宇検村が掲げるゼロカーボンシティの実現や生物多様性の保全・回復の推進や持続可能な地域活性化を目的としている。

4. 研修内容

本研修では以下の2点について考察を行う。

(1) 過疎の村が高所得を維持できている要因について

この点については、村役場にて職員の方へのインタビューを行うことができた。そこで明らかになったのは、宇検村が高所得を維持している理由は特別な制度や企業連携によるものではなく、比較的シンプルな構造に基づいているということである。具体的には、村内で行われている事業が順調に成長している一方で、従業員数が少ないため、1人当たりには分配される所得が自然と多くなっているという点であった。

村内で伸びている事業としては車エビやクロマグロの養殖業、新鮮な水や地域でとれる黒糖を活かした焼酎の製造業などが挙げられる。これらはいずれも、宇検村の地形や自然環境といった地域資源を活かした産業であり、無理に事業規模や雇用を拡大するのではなく、少人数で効率的に運営されている点に特徴がある。

研修前は、企業連携や何らかの特別な政策が高所得の要因になっているのではないかと考えていたため、このような回答は想定していたよりも非常にシンプルであり、強い印象を受けた。宇検村が高所得である背景には、新しいことを次々に取り入れるのではなく、もともとある自然条件や産業を活かしながら、村の規模に合った形で事業を回していることを理解した。

(2) 企業提携により宇検村の人々の生活や地域福祉がどのように変化したか

この点についても、役所の職員の方に質問したところ、企業連携は村民の生活に直接的な影響を与えているものではないということが分かった。その理由としては主に2点が挙げられる。1つ目は、企業連携は村の自然環境を守ることを主な目的としており、日常生活の利便性向上を目的とした施策ではない点である。2つ目は、企業連携自体が比較的最近始まった取り組みであるため、現時点では村民の間に十分に浸透していない点である。では宇検村における地域福祉は、どのように支えられているのだろうか。

この問いに対する答えは役所でのインタビューや実際に村で過ごした時間の中から見えてきた。役場の職員の方からは、宇検村では人と人とのつながりが非常に強いという話を伺った。その例として、カラオケをするためだけに高齢の男性が自転車で山を越えて集落まで来るというエピソードが紹介された。距離の遠さよりも人と会うこ

とが優先される文化があり、イベントも多いため、日常的に人と関わる機会が確保されているという。

実際に村内の産業視察として訪れたレストランや商店でも、店員と客、さらには別の客同士が自然に会話を交わす様子が多く見られ、普段からの人との距離の近さを実感した。レストランで働くインドネシア出身の方にも話を伺ったところ、共に働く人やこの土地への愛着を語っており、国外から来た人も含めて関係性が築かれていると思った。また、宿泊した旅館では、職員の方が朝食時に観光名所を気さくに教えてくださった。その朝食会場内にいた私たちだけでなく、別の観光客の方々とも話されていたため人が人を気にかける姿勢が村全体に根付いていると思った。これらのことから宇検村の地域福祉は「人と人との密接な関わりとそれを大切にする文化」があることで支えられているのだと考える。

5. まとめ

本研修を通して、宇検村が高所得を維持している背景や地域福祉の在り方について学んだ。研修前は、企業連携や特別な制度が地域の発展を支えているのではないかと考えていたが、実際には自然環境を生かした産業を少数精鋭で運営している点や、人と人とのつながりが暮らしの基盤となっている点が大きいことが分かった。

特に印象的だったのは、政策や制度そのもの以上に人と人との関係性が村民の生活を支えているということである。行政施策は、その関係性を支え補完する役割を果たしており、経済と福祉が対立するものではなく相互に支え合いながら成り立っていることを実感した。

本研修で得た知見は、今後地域福祉や官民協働を考える際に、制度の成果だけでなく、現場で暮らす人々の生活実感や人間関係に目を向ける姿勢の重要性を示している。この学びを、今後の学習や将来の進路において、地方行政や地域づくりに関わる分野への理解を深める基盤として生かしていきたい。

参考文献

- ・宇検村村役場, 2025, 「鹿児島県宇検村公式ホームページ」, (2026年2月25日取得, <https://www.uken.net/>).
- ・年収ガイド, 2025, 「鹿児島県宇検村の平均年収・所得」, (2026年2月25日取得, <https://www.nenshuu.net/>)